

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的 に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学部広報体制を確立し、アドミッション・ポリシーを設定、公表する	→アドミッション・ポリシーの設定、学部内における広報委員会の創設、広報媒体作成・HPの改編および受験生および在学生への定期的な情報発信	B
2. 入学試験別募集定員・受験科目の見直し	→2012年度入試を目指した入試制度改革案の確立	B
3. 在籍学生数管理の徹底	→入学者数、在籍学生数（入学者数を収容定員650名以内に抑える）	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	<p>(方針)</p> <p>学部のアドミッション・ポリシーを以下のように決定し、学部内外への広報を図る。</p> <p>社会学部 ～幅広い関心と鋭い問題意識を有し、社会のさまざまな領域で、その能力を十分に発揮できる人材を育てる～</p> <p>社会学とは、人と人の関係、家族・学校・企業やさらには地域・国家といった集団と人の関係、そしてそれらの集団と集団間の関係の中から生じるさまざまな事象にアプローチし、より理想的な社会のあり方を模索していく学問です。とりわけグローバル化や高度情報化が進んだ現代社会の本質を探究するためには、高等学校において基本とされる各教科を幅広く学習し、大学での学びの基礎的知識・教養を習得するための準備を行う必要があります。</p> <p>またそれらを基にして、既存の研究領域にとらわれない柔軟でバランスのとれた思考力、自主的な行動力、そして鋭い観察力や分析・検証能力を涵養することが必要です。社会学部は「真理はあなたたちを自由にする」という聖句を基本精神とし、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、社会のさまざまな領域で、その能力を十分に発揮できる人材を育てるために、意欲に満ちあふれ、さまざまな適性を有した多様な学生たちを受け入れることを基本的な方針としています。</p> <p>一般入学試験、センター利用入学試験においては、こうした点をふまえ、入学試験科目や配点を決定しており、本学部で学ぶための学力判定を行っています。</p> <p>(現状説明)</p> <p>「幅広い関心と鋭い問題意識を有し、社会のさまざまな領域で、その能力を十分に発揮できる人材を育てる」というコンセプトのもとに、アドミッション・ポリシーを決定した。このポリシーの実現のために、以下の取り組みを実施した。(1) 一般入学試験、センター利用試験に際して、高い意欲と多様な適正を持つ学生の受け入れを促す科目・配点の決定、(2) 学生の幅広い学習と社会的な関心の高揚を促す学部教育プログラムの実施。</p>
☆	<p>(現状説明)</p> <p>2010年度の入学定員設定は650名で、このうち一般選抜入試は415名、A0入試やスポーツ選抜入試などの各種入試は235名と設定し、学生に対して多様な入試による入学の門戸を開いた。また一般選抜入試には一般入学試験、センター利用試験のほか、独自方式試験を設定し、多様な学生の受け入れを図っている。入試結果は随時広報を徹底し、透明性確保に努めた。</p>

☆ 小項目5.0.3	(現状説明) 2010年度の入学定員設定650名に対して、実際の入学者は668名であり、概ね目標数に一致する。
☆ 小項目5.0.4	(現状説明) 2010年度の一般選別入試ならびに各種入試の配点や科目、それぞれの入試による入学者数の配分は、高い意欲と多様な適正を持つ学生を受け入れるというアドミッション・ポリシーにもとづいて決定した。これらの入試による入学者数も当初の目標数にほぼ一致し、適正な入試が実施されたことを裏づけている。
☆ その他	

## 《特定6項目データ》

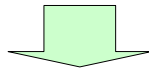
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【社会学部】		単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	64.1%	73.6%	66.5%	62.2%	55.5%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
表	入試形態別入学者数		→	→	→	→	→	大学基礎データ表15参照
表	学部の社会人・留学生・帰国生徒数		→	→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
指標2	志願者総数	人	7,768	7,077	7,865	7,983	7,104	
指標3	志願者倍率	倍	12.0	10.9	16.6	12.3	10.9	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	%	—	—	—	—	—	近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	2010年度は入学定員の目標設定650名に対して、実際の入学者は668名で、概ね目標数に一致する。
小項目5.0.4	
その他	



## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	ほぼ目標数通りの適正な入学者を得た2010年度の基準を次年度にひきつぎ、適宜修正を図りつつ入試科目や配点、各種の入試による定員の決定などに適用する。
小項目5.0.4	
その他	

## ◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	一般選抜入試における独自方式入試が目標数35名に対して入学者67名、センター利用入試が目標数75名に対して入学者57名で、各種の入試ごとの配分では適切な学生数の受け入れを達成できなかった部分がある。
小項目5.0.4	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	入学者数の適正化をはかるため、独自方式入試やセンター利用入試など、各種の入試ごとに選抜基準の見直しについて検討を行う。
小項目5.0.4	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○2010年入試は一般入試入学者比率が全学の目安である6割を初めて切っています。また、志願者総数、志願者倍率が2007年入試以来、低下していますが、このあたりの背景分析はなされていますか。  
○それにもかかわらず、「2010年度の基準を次年度にひきつぎ」というスタンスを示されているのはなぜでしょうか。  
○小項目5.0.3と5.0.4をめぐる記述に矛盾がありますが、結局のところ各種の入試ごとの入学者の配分は適切になされたのでしょうか。

## 【学内委員】

○アドミッション・ポリシーを決定し、それに基づいて入学試験全体の検討、実施を行っていることは評価できます。  
○設定されたアドミッションポリシーに沿って、試験科目や入学定員が設定されている点は評価できます。また、各種入試制度を用いることで多様な学生の確保も進んでいると思われま。ただ、障がいのある学生の受け入れ方針や受け入れ状況などについての記載がみられないので、その点を改善することが求められます。  
○入学定員に沿った入学者の確保については、現状の数値は大変評価できますが、入試形態ごとの定員数と実入学者数のずれが大きいため、今後各種入試ごとの選抜基準の見直しが求められます。  
○編入学試験において募集人員を「若干名」としている場合、定員充足しているにも関わらず多くの学生を受け入れている場合は助言の対象となる可能性がありますので注意してください。  
○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「4. 学生の受け入れ ③学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である」「同、④学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である」については、それぞれ助言や勧告の対象値が示されています。絶えず確認し遺漏のないようにお願いします。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

(5.0.1) 障がいのある学生の受け入れについては、「学生の誰もが等しく学べるよう、障がいのある学生に対して修学支援を行う」との大学の方針のもとに、教務部キャンパス自立支援課と連携して受け入れ態勢を整えている。

★(5.0.4) 2008年度入試からF方式が2日間で実施されたことで他学部との併願が可能になり、志願者が倍増した。またセンター試験利用入試では2月の関学独自方式などを導入したことなどにより、センター試験利用入試の受験者が前年度より大きく増加した。

2009年度には定員を650名に増員し、2010年度の志願者総数および倍率は2007年度とほぼ一致し、適正な入学者数を確定する範囲内に置くことができた。2009年度の定員増の際に指定校推薦入試やAO入試など入試形態ごとの募集定員を大幅に見直しを行っており、この推移を見守りつつ、定期的に検証を行うこととしている。

## V. 本項目の評価指標

### <全学的な指標>

5.0.0.S1	学生の多様性の確保ー入試形態数と入試形態別入学者の割合
5.0.0.S2	各学部の新入生数のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合
5.0.0.S3	地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数
5.0.0.S4	入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数
5.0.0.S5	AO入試の受験者数と入学者数
5.0.0.S6	社会人学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S7	専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数
5.0.0.S8	科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数
5.0.0.S9	聴講生の入学者数
5.0.0.S10	留学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S11	国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化
5.0.0.S12	学部における収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S13	学部における入学定員に対する入学者比率
5.0.0.S14	編入学定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S15	博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S16	博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率
5.0.0.S17	学部・学科の退学者数
5.0.0.S18	学部・学科の編入学者数

### <個別的な指標>
